

# 倍達幼稚園

(朝鮮馬山府)

L · Y · S 生

筆をとるに先立つて貴協會刊行雜誌幼兒の教育を通じて我が倍達幼稚園を世に紹介するの光榮と厚誼とに深く感謝致します。

我が幼稚園はその名を倍達幼稚園といひ本年五月一日に開園式を擧げた世に生れてやうやく一月餘りの歴史を持つ極く幼い可弱い幼稚園であります。我が園は若い女子の教員が四人と在園生が八十餘人此れらの人數を以つて組織して居ります。

無邪氣なる子供、それに對する氣のやさしい先生、想ふて見ただけでもその小さな社會はあそらく此の世を超越した美しい社會であるのだ。女性の優れた母性愛と天真爛漫たる子供の純潔さを味

はんと欲するならば須らく幼稚園に參れといひたい。

筆者は此の園の經營に間接的協賛はしてゐるが直接には何等關係を持たない第三者であるのだ、筆者は毎日此の園を訪れる、今や可愛い子供らといふと愚鈍な筆者との間には或るいふにはいられない切るに切られない強い心靈の力がつながれてゐるのらしい。筆者は家庭的スウィットも充分求めた社會的親しみをも求めた。學校生活の楽しさをも味ふた、しかし何れにしよう、それらは皆競争の舞臺であり生存の混濁に過ぎなかつたのである。しかし此れらの皆てを通り越して一度び幼稚園を訪れて見よう、必ずや吾人は眞實なる人間と眞實

なる社會とを見出すであらう。

四人の先生の中には年を少しとつた先生が一人、本年京城中央幼稚園師範科を卒業した方が一人、助教員が二人、合せて四名の教員が總ての保育の事業を處理してゆく譯けだが、指導役に當つてゐる二人の年長教員が主なる役目をつとめてゐるのだ。

今此の二人の年長教員について少し見て感じた處を二、三述べて見ようと思ふ、二人とも眞心を以て子供に對する譯けだが各々人格の表現が異なる、少し年とつた先生は年をとつたそれだけ家庭の經驗を多く持つてゐる譯けだが經驗そのものが彼女の手腕を毒したのか、どうしても枯渇な處があるやうに感ぜられる。しかるに何等眞心が足りないといふ譯けではないがされど子供らは彼女に親しみを持つことが薄い、彼女の眞の人格がそれだけ劣つてゐる譯けだかは知らないが、しかし師

範科を出た先生彼女は勿論性格に於いても子供らしい無邪氣さもあるが教へる技能に於いても確に優れてゐる點が多い、結局人間的弱い感情作用より離れて眞心を以つて天真爛漫たる子供達に對するからである譯けだ。經驗を持たぬもそれだけ彼の女の心の表現が純潔であるのかも知らないが子供らはすぐ彼の女はなつてゆくのであつた。

思ふに今より十年前に逆のぼつて筆者にも斯くの如き日があつたのだ、小學時代に筆者の幼き時代を導いて下さつた〇といふ若い氣持のいい先生に對する敬慕の念は早や十ヶ年といふ長い過去をもつてゐる今日に於いても毫も薄らげてゐないのだ、それにまして彼の女對子供の愛の連鎖は私と〇先生とのそれに接觸せしめて私の〇先生を慕仰する念は益々深い、彼女の年齢といひ容姿といひ言語動作といひ〇先生をつくりであるのだ、殊に容姿に於いて、しかし彼の女の外的表現が筆者を

して〇先生をしのばせるにあづかつて力あつたから筆者をして彼の女を敬仰するの念を深からしめたのではない、實際彼の女は眞實を以つて子供らに對するからであるのだ。

優雅なるオルガンの者に導かれて子供達が無我の境に於いて踊つてゐるのを見たとき我々はさながら天國の樂園に彷徨するの感がする。子供の前には總ての人間の權威をすてなければならぬ。眞裸なる眞人間になつて子供に伴侶たらなければならぬ。而して子供は大なる懷疑家であるのだ、大なる哲學者であるのだ、一つの疑問を持つばそれから質疑の言葉は連發する、而してややこしい理窟の答では承知しない、時々奇想天外の質問を發する。

第一教員なるものは虚言をいふてはいけない、子供らは彼れらが一番信頼する彼れらの先生の言葉は悉く眞實だと信ずるからであるのだ。

此ちらの幼稚園の設備それも勿論創立早々のこととて乾燥した貧弱なる設備であるのだ、第一建築物それから美的設備は勿論のこと保育設備までがそうであるのだ、遊戯室だつて廣い荒組の床板上に小さなオルガンが一脚置いてあるだけで勿論保育室だつてそれも一基の破れがかつた黒板に教卓、眞黒い机と荒板組みの椅子が數脚並べられてあるのみだ、それ運動場も狭い、遊び道具だつて二ヶのバスケットボールと一基の滑り臺と若干のおもちやを持つのみ、しかしこれだけの設備でもそれを組立するには少なからぬ努力と義捐とが入つた譯けだ、出來得ることならば立派な設備もしてあげたい子供らをして快活に遊ばせたい、美的情緒をも養はしめたい、しかし今の處此れはまづ法外な望みだ、どうしても一般社會の文化の程度はそれを理解し自發的に子供の爲めに盡すといふほどまで進んでゐない、子供を幼稚園にやるのも大

概は子供が家にゐてはうるさいからといふ利己的  
觀念からであるらしい、要するに燦然たる文化も

斯くの如き微弱なる出發點から初まる譯けだ、大  
衆がやうやく目ざめ初める此の期が一番大なる機  
轉を試みなければならぬ眞劍的眞際である譯け  
だ、筆者はかくの如き機轉期に於いて不設備の幼  
稚園に於いてかくの如き立派な先生を見付けたこ  
とを喜ぶ、先生の苗字は確かに朴といふてゐた、  
お名は知らない、私は彼の女の民籍上の名稱は知  
らない、けれども立派な名として共通の名稱とし  
て筆者が彼の女に奉つた名前としてそれは確かに  
知つてゐる、その名前は『總ての子供の母』といふ  
名前である、勿論母といふ言葉の意味も普通人倫  
道徳上にかぎられた固有名稱の意味とは違ふので  
ある、筆者が意味した母といふ言葉の意義は『皆  
ての子供を母性愛に依つて生かす』といふ意義に  
解釋したい、それ彼の女の尊い性格の表現は子供

らに深い親しみを與へると共に傍觀者をして心か  
らの感服を餘儀なくせしめるからであるのだ。

人は眞實に生きるよりより尊いものはなく眞實  
に信賴するよりより頼もしい強い力はない筈であ  
る、我が園の園兒達は大意無邪氣なる内的氣分を  
充分に表現しない、ややもすれば陰鬱に沈み勝ち  
であり常に引き込み思案が多いやうに見受けられ  
る、殊に女の子に於いてそうである、内に欲する  
ところを赤裸々に表すことを避けてゐる、避けて  
ゐるのではない硬くなつて縮つてしまふのである  
それは無理ではない筈だ、子供達の一人一人の家  
庭を訪問したならばすぐわかることだ、一言で斷  
言すれば彼れらの家庭は餘りに專制的に消極的に  
彼れらを導くからであるのだ、勿論彼れらの家庭  
組織も第一數へきれぬほどの缺陷を持つてゐるが  
彼れらの父兄は子供に對する知識を持つてゐない  
からであるのだ、考ふれば彼れらの父兄彼れらは

より暗いより硬い子供時代を過して來たのだ、それが傳統的暴威を以つて彼れらの子供の身の上に襲つて來たからであるのだ、而して彼れらはその傳統的暗黒を打破するだけの知織と刺戟とをもつてゐないのだ、それは確に傳統的暴威と社會組織の缺陷とに依る無知の罪であるのだ、しかし吾々も一度穿鑿の槌を振つて深入りをしたならば以上に掲げた理由は極く單純な微力なる原因に過ぎないのだ。此れよりより大きい痛しい理由がひそんでゐるのだ。『悲痛なる運命に置かれたるものは常に陰鬱に沈まざるを得ない』といふことが。

幼稚園の位置それも餘り感心は出來ぬが喧々たる市中よりは遙かによしとする處がある、しかし數多い世の誘惑物が園舎をとりまいてゐるのだ、佛を欺く佛堂、笹卜の巢窟、假面の文化住宅、遊食群れの集會所、此れらの恐ろしい誘惑と無知とが園舎をとりまいてゐるのだ、されど前方遙かに

浩々た馬山灣の遠景を控かへ背後奇巖峭立せる名高き舞鶴山を背負ひて巍然と屹立せる我が園舎は泰山の如く磐石の如く四圍の誘惑をよそめにみながら數多の未來の偉人達をかばふてゐるのだ。

悲痛なる環境に於いて傳統的暴威の爲めに縮迫された子供固有の快活さも天真爛漫たる意氣もやさしい先生の指導に依つて貧しいかざりげのない學園の明るさに依つて益々啓發せられてゆくのである、可愛いものよ爾の名は子供なり、尊いものよ爾の名は母性愛なり、偉大なるものよ爾の名は倍運幼稚園なり、導かるるもの、教ふるもの、守るもの願くば永へに幸なれ。